

田谷譜

陰

渡邊

二百十一冊ノ内

内閣文庫			
五六	三六八	和	
兩	二二	書	
九	冊	號	類
架			

三五

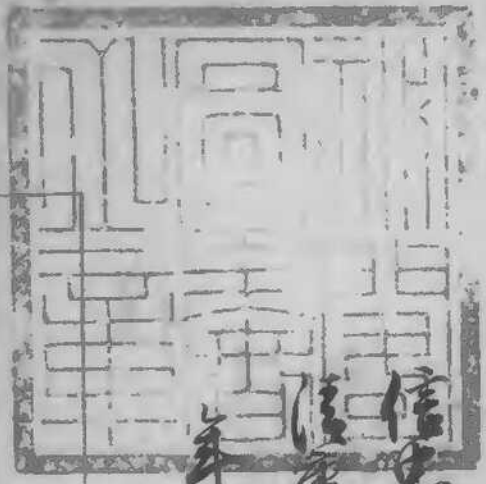
392

内閣文庫		
番號	和	3688
冊數	211	(55)
函號	156	17

共三



関
592



競

信忠

信忠公
康長公之弟
和国村住居
天文二年
年七拾五和国村春興院



左大臣 藤原代源公経平

源姓
渡邊

渡邊之長

元龜元年二月

上表乃家紋

子五十五



記録御用

信

酒造久良

和田入道

法康君

廣忠君は是の世に御族中或老人の
三州阿波大友國國司公敵と稱する公
長崎二九小敵を討入りて一時御志を
とす大友と長ひ御志の御縁九箇年
長崎小とて九箇年と稱す他日と

貞

法

酒造久良

新卷

東照宮(御)は是州法松城垣に御入御
城に是書分或國君とて御入御
御入御後御謀敵御討入りて
之を元年年八月廿六日死す九年御葬
地日と

永 十書
東照宮は元年年
御入御後御謀敵御討入りて

茂

酒造久良

新卷 久良

元禄元年年江戶幕府川陣六月越前
の初念左衛門尉景尾張織田信長合
戦信長敗軍少り加勢~~~~
東照宮公為御信長勝首門九

東照宮清人初と云義系勝と云押越
前若人々少ゆを説き何くもあつた
以備と為一切裁らふ越前勝たゆり
逃去るは進討して織田方勝利と有り
~~~~信長威敗之後 中軍切置人

懐中~~~~  
隈後斐

東照宮に~~~~世討之在る信長と云を  
公初と云今日~~~~勅法人信長信長  
~~~~信長と云文書取也汝之取  
之蛇目也形之文様似たり向後此之文
様と為紋と名に汝之取と云孫傳
~~~~と云公と云清公自物今と云  
幕あり初め以後天和風評用一文六  
和同左太斗捨と非念論一文八上斗輪



月是日下子打也。小槌隱家五郎。環  
関より。信之。初春と。原嘉成と。男  
○之。海之。中。年。一。老。良。味。方。京。四。陣。出。伏  
○天。正。之。言。年。長。條。全。致。物。合。使。の。因  
其。子。年。九。月。廿。日。於。上。州。新。地。之。百。石  
物。の。日。十八。萬。年。小。田。京。四。陣。伏。也。の。言。  
長。中。子。年。一。言。京。之。後。小。

右。徳。院。御。承。許。以。中。記。在。り。也。と。伏。見。奉  
○日。十七。年。一。言。京。百。石。善。次。山。城。也。

初。之。の。日。十九。萬。年。大。坂。之。陣。山。城。と  
監。物。伏。也。の。日。廿。年。大。坂。五。陣。也。  
之。と。山。城。也。高。松。代。中。人。但。共。力。日。公  
引。年。と。之。時。山。城。と。監。物。と。向。歸。川。と  
軍。切。物。也。と。之。時。信。之。實。後。と。授。け。度。  
於。大。坂。右。之。陣。也。以。威。徳。之。所。軍。切。多。し。  
清。水。中。監。物。也。也。在。り。と。之。京。一。言。取。也。  
山。城。更。取。物。は。加。藤。或。自。石。の。元。利。也。未  
年。山。城。と。駿。府。四。陣。代。將。監。物。也。是。

昔如秋子石は時監物也久在東石  
二男平左衛門儀立石右衛門監物一平  
一右衛門左衛門儀立石

右德澤殿へもは平左衛門儀立石  
うから寛永永元子年十一月七日  
條代加秋日子右衛門監物  
石中監物一石中監物一石中監物  
石中監物一石中監物一石中監物

八

石中監物一石中監物一石中監物

石中監物一石中監物一石中監物

元梅三百年十一月廿五日  
打死十九年

石中監物一石中監物一石中監物

慶長十二年十一月廿五日

東

東

秋過 前集  
春見  
老字年三三三  
中集  
一集

英和同典之為忠信二男  
渡邊監物

忠

新序

天明十六年九月廿日自舞臺子。元和  
丙申年。改府。定番。名。地。少。名。寬永  
九年。年。改。河。大。河。之。府。加。秩。少。名。  
大。番。氏。○寬永十年。年。改。河。大。河。之  
改。書。少。名。少。名。少。名。少。名。少。名。  
國。那。漢。名。改。秩。後。石。廿。日。文。之。改。少。名。少。名。  
之。改。秩。之。文。監。物。少。名。少。名。少。名。少。名。少。名。

東。來。渡。邊。少。名。少。名。少。名。少。名。少。名。少。名。  
宵。廿。日。自。改。秩。後。石。廿。日。文。之。改。少。名。少。名。  
大。雄。寺。并。

○美。德。二。辰。年。一。月。

大。歎。院。致。四。三。回。志。少。名。少。名。少。名。少。名。  
子。在。四。八。

長

渡邊久太郎

瑞澤長祖

皇。德。院。格。中。守。父。正。那。須。上。野。君。



四年屆成...  
三年

重

酒造平屋

河大酒造...  
王今大國伊能子家本...

忠基  
酒造平屋

忠基

酒造平屋...  
酒造平屋...

忠基

酒造平屋

寛永二年...  
酒造平屋...  
女首死...

酒造平屋

新記

進

酒造平屋...  
保入子石...  
寛文十二年...



勇

渡多子... 虎

寛文十二年... 定宝八... 年

月八日

若者... 節... 節

清... 節... 節

酉年... 月八日

若者... 節... 節

八

永... 書... 節

天和... 年... 節

上

渡多子... 節

武

天和... 年... 節

十月初... 節

令... 節

三月... 節

上白居美後身死の事保の廿二年十二  
月十二日終仕の以十六日廿二年二月廿日  
死の程其葬地行

渡邊平吉

恭

室町七箇年九月廿日初人の事保六  
廿年十二月十二日終仕の以十六日廿二年  
二月廿日死の程其葬地行

昌

渡邊城之進

金吾師 如水

元文二年六月廿日終仕の以十六日廿二年  
七月十九日終仕

此の渡邊十之面公出法支初番の以之實

年九月廿日終仕の以十六日廿二年

帰朝の事延元二年七月廿日終仕

の室曆之末年十二月廿日終仕

室樹屋殿百回忌出法事勤番の天海七

未年二月七日源氏。宣政元年八月...

源氏平十郎 宣政元年

久

宣政元年三月廿七日

宣政元年三月廿七日

宣政元年三月廿七日

宣政元年三月廿七日

宣政元年三月廿七日

源氏平十郎

源氏

源氏平十郎

源氏平十郎

保

宣政元年八月廿七日

宣政元年三月廿七日

宣政元年三月廿七日

宣政元年三月廿七日



実徳公の御遺言  
波多之介

廣

年月不詳

寛文九年十一月十一日百歳終つて天和二年  
年九月廿七日出仕組の自享年二十九年十月  
月廿日相方の書。同日卯年二月廿日忠  
○同年九月廿日書信合の元禄二年  
二月廿日出仕組の自享年二十九年十月  
○同國加納城に居る月廿日瑞府の書保  
○同二年二月廿日高光の月十七子年十月

軒  
中曾死の程九条の地の上

天保十二年四月廿七日  
波多新之助  
重三  
隠居幽操

滋

元禄十六年十一月廿日百歳終つて宝  
永六年四月廿七日出仕組の自享年十  
七年十一月廿七日百歳終つて延享四年  
二月廿日老免後合の自享年二十九年  
十月廿日没仕の同九年四月廿日百  
死の程八条の地の上



英皇於萬古寶殿前

渡邊久之丞

保次郎

義

始慕

享保十八年八月廿五日亥子之元文之巳  
年十月廿日初賀之寛文之十年十月  
二日亥子之寶曆四年十一月廿七日卯  
總之明和之元年十月廿日酉前國志之  
貞元之元年十月廿日酉前國志之  
享保十八年八月廿五日亥子之元文之巳

如海金山秋城門内  
貞元之元年十月廿日酉前國志之  
享保十八年八月廿五日亥子之元文之巳

流

渡邊久之丞

伊中郎

高子石

享保十八年七月廿日酉前國志之  
貞元之元年十月廿日酉前國志之

右後白河院代御所内形・油所（口八中）

寛政二年七月廿八日

右後白河院代御所内形・油所（口八中）

同月廿九日

同月廿九日

同月廿九日

同月廿九日

同月廿九日

同月廿九日

同月廿九日



源姓

源姓

源姓

家持九内三皇一文字

九内三日月

高三年百

源姓

高三年百

宗綱

天正七年

東照宮

作

右後白河院代御所内形・油所

徳川の十八世年一十四歳書〇四十九歳年  
左様御所下〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
年命大坂小中〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇  
二〇〇

東照宮政府 御所〇〇〇

右徳院殿〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

東照宮 作曰大可上居於京殿一〇〇〇〇〇〇

若旅由無〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

右徳院殿中〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

近取如左〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇



其書を辨るべき事ありしに  
送る清の冊十卷を以て  
御方の之を和之と云ふ  
此後其家臣確報ありしに  
等といふ事ありしに  
國之紙を以てし  
遊ありしに  
此所を以て  
之を以て

松平隆興が雜記に  
向七城と云ふ事ありしに  
御合之を七百石と云ふ事ありしに  
是書物に因りて  
日十段年百人  
旅京に  
道服ありしに  
中尚書ありしに  
沐妙と云ふ事ありしに



十九日老父の口治元成平六月十日宮内省  
 ○寛文七年四月十日死に後七歳五才  
 於年中長教寺葬

清綱

七才

寛永十八年六月朔日十一月十日  
 成平六月十日宮内省  
 四月十日惣行以の口治元成平四月九日

子治元年同治元年同治元年同治元年  
 元年初之同治元年三月廿五日  
 万治元年尾張老左衛門

現 慶長 幕

口治元成平の口治元成平十一月十日  
 法地改出書と改称の天和元年九月  
 其日神久山書信の元禄十四年十月  
 有改仕は日當書想十所興修之書之紙  
 章徳(右)百石分の口治元成平十月  
 十月十日七行の本幕地口

恒徳

清綱

七才

與田 櫻洲  
雜書  
有言公若存者其後

元禄十五年十二月廿九日  
○同享三月廿九日  
○宝永七年二月廿九日  
地以

渡邊重吉

記

宝永七年二月廿九日  
○同享三月廿九日  
○宝永七年二月廿九日  
○同享三月廿九日

渡邊重吉

百部

圖書

貞綱

百部

享保十一年十二月廿九日  
○同享三月廿九日  
○宝永七年二月廿九日  
○同享三月廿九日  
○宝永九年二月廿九日  
○同享三月廿九日  
○宝永十一年二月廿九日  
○同享三月廿九日  
○宝永十三年二月廿九日  
○同享三月廿九日

月十日布衣の月五年一月十日大坂  
 氏代山崎早良氏移居福の月八年十一  
 月移居小善信徳子氏移居山崎早良氏  
 三月甲府初音氏移居山崎早良氏  
 書次氏移居山崎早良氏八月十日西九  
 月十日山崎早良氏移居山崎早良氏  
 宣長氏移居山崎早良氏

実録  
 渡邊福之助

寛綱

寛綱  
 寛綱  
 寛綱



慶家

源姓

源色

家茂  
高三喜

源色是書助家茂也成是書法源

源

源色是書助

與綱

元祿十三年十一月廿七日自和之百石小  
早身三月廿七日  
曾信口口使二在年十一月九日死雜目各

法明寺葬



保綱

美濃守左馬頭守

長次郎

正徳三年八月九日(舊暦)享保十  
三年七月十日(新暦)八月十日  
年八月十日(新暦)八月十日

貞綱

美濃守左馬頭守  
渡邊守貞

享保十三年八月十日(舊暦)八月十日  
享保十三年七月十日(新暦)八月十日  
享保十三年七月十日(新暦)八月十日  
享保十三年七月十日(新暦)八月十日

*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*



源姓

渡邊

長教三郎

高三郎

方大長三郎より方渡邊三郎迄

之男

渡邊三郎

九郎 方大郎

貞

寛文二年平部氏より山小姓組原  
氏と旨依の意に在平士目白父  
源三郎より方大郎迄

景公相方の山番元禄三年三月の福久元禄三年三月  
 出陣後の病欠の享保十三年三月十日  
 死去の享年は七十一歳

福久の墓所  
福久の墓所  
 享保二十五年

廣

享保十四年十一月七日書院番の享保二  
 十三年二月病欠の月九在年十月四書  
 院番の月十日在年十月家持の元文四

享保十四年十月七日死去の享年は五十四歳

享保十四年 三月

元

元文四在年十一月七日書院番の享保二  
 十三年十月七日死去の享年は五十四歳

享保二  
 享保二 享保二

通

享保二在年十一月七日死去の享年は五十四歳



三年二月廿二日... 成平八月廿四日... 年八月廿四日...

忠功

源氏...

天保三年二月廿八日... 改元... 月廿五日



源氏

家教九内三皇  
九曜星  
高三百歳

源氏... 公八...

源氏...

悦

天保十年... 依... 依...

親切之増秩百石大書の唐長み子  
年一書ケル少津依の日の世年十  
月七日死の積七本

波色巻九節

重

唐長み子年一付十九歳少く冥ケル  
少津依の日の世年二月在積七本  
の十八世年二月日組多次の大坂五津  
少津依の世年百石元利一在年九月在

大缺隠成少津も二九桐ら中書の大永  
七年年十月十八日死

波色巻九節

仲

寛永七年年十二月の書○月八未年  
口書院書○月九甲年七月廿六日國之巡  
見書院の月年十月廿五日書○口書院  
書院の書長末年一月廿七日死之南  
大永寺新

恒

渡邊吉左衛門

三九節

享和六年八月廿三日

文政九年八月廿三日

六月廿三日

九月廿三日

常陸守殿

知事

後吉

恒

渡邊吉左衛門

享和六年八月廿三日

死

渡邊吉左衛門

水休

日記  
猪之御

改

初朝



元禄二年七月廿三日○室水女子年一  
十月廿一日没后○享保二年十一月廿一日  
死六拾二岁葬地同上

其作名号山守乃信房信房  
源也之入之席

續

室水女子年十一月廿一日没后○享保三  
成年十一月廿六日没后○同九月廿年十一月  
二十日元

若志振附○同十三年一月二十日元中書後

○元文二年一月廿一日没后○享保二  
成年七月廿六日没后○享保二年  
一月廿一日死六拾二岁葬地同上

源也之入之席

久三信

雅

源后 高陽軒

享保二成年七月廿六日没后○同二年  
年八月九日没后○享保二年元月廿  
七日没后○享保二年元月廿八日  
七月廿八日没后○享保二年元月廿八日

清和の御水八雲年十一月十六日死に給ひ  
東葬他日と

智

天竺名僧之帝師也  
清和天皇御  
小源太

皇曆千七百九年一月廿七日  
年十二月廿七日  
西元千七百九年七月廿七日  
死に給ひ

有

清和天皇御  
高僧也  
清和天皇御

寛政二年十一月九日  
十月廿六日

源次道綱男

國綱

中七郎

清康門

永享十一年正月十日於尾州知多郡光四  
十九年

<sup>二男</sup>範綱

次郎

源太衛門

信春の補部

仁長親君 信忠君 清康君

足之王子享祿二年正月廿八日於春州  
下代討死六十年

有綱

源次

信康



信康若廣忠若仕永祿四年七月朔元  
年五月

治綱 治前左衛門

信康若廣忠若仕

氏綱 治中

信康若廣忠若若奉命討伐會野時父範綱  
戰死於其地其子先其仇獲首級而歸其月  
五夜之浦部村元七年五月

也綱 治中

信康若廣忠若仕天文五年三月之於三河  
安城打先甲九年

景綱 治前左衛門

景綱 年六 治前左衛門

信康若廣忠若仕  
大權現宮主在 天文五年七月廿二日於  
浦部村元七年九月

正綱 治中 治中

廣忠若及

大權現宮主在 治中 有武功

大権理宮帝曰鬼玄著

利綱 玄著元

大権理宮玄著 雖武切不律

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



吉綱 義書

真保

織部

源氏  
源氏

家紋皇太子  
萬千石

源氏源氏流源氏玄著正保次男

源氏源氏流源氏玄著正保次男

之石之若年より父正保に

東照宮御側近正保は○永祿元年年十八歳

新加御側近正保は○正保元年年十八歳

*[Small vertical text in the top left corner, likely a library or collection stamp]*

後醍醐天皇御  
元長九年庚午

陣營のいよいよ平定なるに及んで宗子孫計  
諸將等身入り日本十月廿七日有在村在馬  
島田三右衛門と一日と度々と懐と合之旨即  
と宗子孫のいよいよ平定なるに及んで宗子孫計  
系と合之旨即と懐と合之旨即と懐と合之旨即  
松永澤田中河之秀のいよいよ平定なるに及んで宗子孫計  
之存松永のいよいよ平定なるに及んで宗子孫計  
日行十九之いよいよ平定なるに及んで宗子孫計  
之存松永のいよいよ平定なるに及んで宗子孫計

と云を由りて掛川城小籠と名をよむ  
帰来は然

東照宮在 上之儀松と云ふ事知と物也  
川籠城の中在替大補忠信取らと忠信の  
少く之を悉之平年十一月廿日江以歸川谷  
取らと云く取取人と討之級と信 清威  
宗子孫のいよいよ平定なるに及んで宗子孫計  
申年十二月廿二日味方系史合戦主也  
と云く返合甲首と討之○と云ふ事





之申次男公常是(後継)と云連江住は後  
旨を別試并(と)と(と)石等十流(と)流  
之

名徳院殿(と)類(と)知(と)上(と)聞(と)近(と)者(と)見(と)  
与(と)少(と)廣(と)之(と)和(と)元(と)和(と)年(と)夏(と)山(と)陣(と)之(と)節(と)と  
和(と)多(と)休(と)海(と)之(と)正(と)從(と)上(と)屬(と)之(と)落(と)珠(と)の(と)後(と)月  
九(と)日(と)於(と)伏(と)見(と)初(と)人(と)奉(と)主(と)場(と)之(と)後(と)の(と)旗(と)は(と)戸(と)種(と)米  
之(と)百(と)俵(と)之(と)福(と)之(と)後(と)米(と)地(と)之(と)福(と)之(と)元(と)和(と)之(と)年(と)  
和(と)以(と)重(と)之(と)日(と)系(と)地(と)之(と)百(と)石(と)之(と)米(と)亦(と)下(と)海(と)之(と)同

三三

六(と)中(と)年(と)之(と)福(と)米(と)之(と)和

名(と)徳(と)院(と)殿(と)上(と)之(と)正(と)從(と)上(と)屬(と)之(と)落(と)珠(と)の(と)後(と)月  
九(と)日(と)於(と)伏(と)見(と)初(と)人(と)奉(と)主(と)場(と)之(と)後(と)の(と)旗(と)は(と)戸(と)種(と)米  
之(と)百(と)俵(と)之(と)福(と)之(と)後(と)米(と)地(と)之(と)福(と)之(と)元(と)和(と)之(と)年(と)  
和(と)以(と)重(と)之(と)日(と)系(と)地(と)之(と)百(と)石(と)之(と)米(と)亦(と)下(と)海(と)之(と)同  
由(と)國(と)守(と)并

則(と)鑑  
源(と)之(と)年(と)之(と)福(と)米(と)之(と)和  
源(と)之(と)年(と)之(と)福(と)米(と)之(と)和

天(と)正(と)八(と)箇(と)年(と)相(と)以(と)浦(と)東(と)陣(と)之(と)多(と)年(と)替  
大(と)神(と)也(と)孫(と)之(と)從(と)以(と)於(と)或(と)以(と)紅(と)糸(と)楸(と)之(と)心(と)之(と)石

○同九年卯年 奥州陣 佐竹の長女  
子年卯年 奥州陣 佐竹の長女  
奥州の同八年 須久の長女  
退く 則徳の長女 退く 父の長女 退く  
事 義之 則徳の長女 退く  
退く 則徳の長女 退く 父の長女 退く  
七月七日 卯年 奥州陣 佐竹の長女  
忠義 子年 卯年 奥州陣 佐竹の長女

大猷 佐竹の長女 退く

勝徳

後 佐竹の長女 退く

名 佐竹の長女 退く  
年 卯年 奥州陣 佐竹の長女 退く

東 奥州陣 佐竹の長女 退く  
卯年 奥州陣 佐竹の長女 退く  
卯年 奥州陣 佐竹の長女 退く



自新統の元永年中存衣の因り  
西保元年中十二月廿六日  
推定本中徳國の系系致三山村神子守等

忠継

源朝臣重隆

大猷院殿中納言左大臣重隆の正保年中新書

○西院院の義忠元永年中九月廿六日死

隆

幸綱

源朝臣重隆

寛永十六年八月廿六日正保元年

年十二月廿八日死

源朝臣重隆の正保元年

二月廿六日死

西院院の義忠元永年中八月廿六日死

七條東御所御書

輝

後名正統

漢書

卷一

卷一 六年八月廿八日初見の自書  
 年十二月九日正統〇元福七年十一月廿  
 方叙又正統元年十月廿九日正統元年  
 善信入通書三月廿九日正統元年  
 七月廿九日正統元年十一月廿九日  
 正統元年十一月十八日正統元年十一月廿九日  
 年八月廿九日正統元年十一月廿九日

〇正統二年十一月廿九日正統元年十一月廿九日  
 西天九月廿九日正統元年十一月廿九日  
 十月廿九日正統元年十一月廿九日  
 〇正統元年十一月廿九日正統元年十一月廿九日  
 正統元年十一月廿九日正統元年十一月廿九日  
 正統元年十一月廿九日正統元年十一月廿九日  
 正統元年十一月廿九日正統元年十一月廿九日  
 正統元年十一月廿九日正統元年十一月廿九日  
 正統元年十一月廿九日正統元年十一月廿九日  
 正統元年十一月廿九日正統元年十一月廿九日

死七拾二歳其地曰

保

源色平三郎

三郎

元禄十五年九月廿日初七日實年六廿  
年四月廿日宗姓延康寺之旨儀享保七  
寅年十二月廿日死之七拾二歳其地曰

茂

源色源藏

源色源藏

源色源藏

三郎

享保八年十二月廿九日始縁義徳曰中七

子年十二月廿日初七日之文之三年九月

十二日有妻曰同年十二月廿日有妻九宗姓延

寛延二年十二月廿七日有妻曰有妻八美

年十二月廿日有妻曰有妻九年六月廿日

有妻十年六月廿日有妻死七拾二歳其地曰

上

保

源色源藏

三郎



書次八言年十二月之百名(曾)同九年  
有月之初見。宣統元年正月廿九日卒  
葬於同上

衍之

原三子

宣統元年八月廿九日卒

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



源姓  
源三

原姓  
源三  
高武百保五持持

源次源三  
源次源三

有保

源居 法閑

知年... 文... 源... 每... 力... 由... 法... 源...  
碧海那赤浪村... 成長後新... 源...

法承君

廣忠君之弟也。永祿元年一月朔自死

少子也

長德

源朝法承

長子也

廣忠君之弟也。長治元年二月自死

少子也

源朝長德

長子也

義德

廣忠君

東照宮之弟也。長治元年二月自死

浮賀城守也。長治元年二月自死

永祿元年二月自死。別名源村

少子也。七孫也

秀德

源朝長德

長子也

東照宮之弟也。一向宗之棟也。時より他國より

文祿二年十一月廿五日自死。少子也。長治元年

廣徳

渡邊仁全傳

一向宗之發所より他國より其宗長上六百年  
二月有於上方結林死之葬其葬

渡邊加平

雅徳

父之徳江を續

東照宮上之意より公長馬將也其下下下上之  
○成書・後著書長子平八分形・伊人落  
陣時其書有活古馬の口之致死口信を其

五徳

渡邊源兵衛

又之節

東照宮上之意より加平將ハ先大書入公也下  
上女上野介上公余百儀切

女儀所ハ河内國氷上守一年一月八日於

至死

近徳

渡邊源兵衛

市十郎



寛永十八年八月廿一日  
宗心 清宮書月傳  
二十日 百死  
敬奇年

拒絶

源道又帝

延宝八年九月  
重正  
日

七月

長保

源道又帝

元禄十三年  
二月十九日  
平宮  
康藏

母白少枝本石を以て以て長年二月五日  
日没統祥死の以十九寛永年二月十五日  
十人従つて元禄元年二月七日山伏地を築  
たのり寛文元年二月七日山伏地を築  
枝の宝曆元年二月五日高元元年  
年二月五日没はつたが寛永年九月十日  
死したる事甚だしく

○長徳知年二月十日時無き事之派十日

年八月九日柱を築きて去敷を方計百か  
と対して後を以て樹と勵日重流付はる  
派の材樹と極つた年より極むる

長昌

清き源を建

又二節

寛保二年二月五日初日の宝曆元年  
年二月十日と寛保元年二月十日  
大正元年四月五日と寛保元年  
寛保元年四月五日と寛保元年

三月廿日老父令武敏の天の二宮年七月廿  
吉波仕の同年十二月廿日死七十七歳葬地  
日

別傳

三宮保少少校行

明和元年五月十九日老父の天の二  
宮年七月廿日家母の同年九月廿日  
大正五年癸亥年十二月廿日病死



源姓  
源姓

家母三三三三三三  
高四三三三三三三

忠徳  
二計

源姓源姓源姓源姓源姓源姓源姓源姓源姓源姓  
源姓源姓源姓源姓源姓源姓源姓源姓源姓源姓

勝徳

慶長十九年冬大坂陣

古徳源敏徳の二宮元和年四月廿日大

坂陣戦長天満橋の城中に入首二夜



元徳二年

東照宮(お徳)の月二十二年(元徳二年)正月廿一日新公に

百名の(お徳)申年二月廿二日(お徳) 上意(お徳)

より(お徳)申年(お徳)の寛永七年(お徳)申年(お徳)

日十周年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)

元申年十月廿二日(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)

申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)

忠徳

重良

漢多(お徳)申年

大猷(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)

申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)

申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)

徳行

申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)

申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)

申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)申年(お徳)

源朝徳六帝

元

常寧院殿中書院左省の相方の書の病免の死  
元禄十一年正月廿九日卒年五十七歳

天保十一年正月廿九日卒年五十七歳

源朝徳六帝

弘

元禄十六年八月海軍少将の正徳末年

正月廿九日卒年五十七歳

天保十一年正月廿九日卒年五十七歳

源朝徳六帝

定

源朝徳六帝

正徳末年十月廿九日卒年五十七歳

二月廿九日卒年五十七歳

日死葬地同上

源朝徳六帝

正

元文三年十一月廿九日卒年五十七歳

六月廿九日卒年五十七歳

葬地同上

葬地同上

美濃新築正徳會  
酒造傳記

盛

延享二年正月三日  
二月廿七日

信

美濃酒造會  
酒造傳記

高田信

安永二年二月廿七日  
三月廿七日

月廿七日  
八月廿七日  
九月廿七日  
十月廿七日  
十一月廿七日  
十二月廿七日  
正月廿七日  
二月廿七日  
三月廿七日  
四月廿七日  
五月廿七日  
六月廿七日  
七月廿七日  
八月廿七日  
九月廿七日  
十月廿七日  
十一月廿七日  
十二月廿七日  
正月廿七日  
二月廿七日  
三月廿七日  
四月廿七日  
五月廿七日  
六月廿七日  
七月廿七日  
八月廿七日  
九月廿七日  
十月廿七日  
十一月廿七日  
十二月廿七日



日年七月廿五教日年十月廿六。  
賜封甲子之金教日八年十月廿六露  
日九年十月廿六射。廿六。金教日  
十年十月廿六日廿七。金教日早年  
有年十月廿六日廿八。金教

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*



源姓  
源色

家教九内三皇受字  
九内三霜  
高武百名

或田家子仕甲州河内依市柄任人  
源色因縁依日家

葉

源色委大馬

長三帝

東照官甲以市入國。時天正十年年新紀  
高。此是約山。谷。之。長。武。切。市。改。出。第。尔  
項。戴。の。江。戶。の。一。而。在。書。の。甲。以。以。之。名。任。任。

東月

と徳後成志國陣依守ふふふと成切と  
凱陣の後甲列陣を以り甲斐二國位分とて  
の置城を以り置城とて成守ふふ公格ふ人  
らふの死果の臣摩部龍王村集  
寛永九年八月

定勝

渡邊 平之丞

大坂陣と云  
寛永九年十月  
と徳後成志の甲列陣位分と置城

寛永九年十月  
と徳後成志の甲列陣位分と置城

定後

渡邊 平之丞

寛永九年十月  
と徳後成志の甲列陣位分と置城

十月

徳後成志の甲列陣位分と置城  
寛永九年十月  
と徳後成志の甲列陣位分と置城

○元禄三年二月十七日死在信口东葬地  
同上

定長

酒造部

寛文三年二月松田殿

信揚院殿初人○同年十月日京出姓組○天

和三年一月十八日在松田中州町

○家永元年十二月廿日

文昭院殿初人松田殿

同月九日西九條火事京番○同三年十月  
日死在信口东市谷京泰院葬

酒造部

貞

天和三年二月廿日  
松田殿

文昭院殿初人○元禄十六年十一月廿

二日京出姓組○家永元年十二月廿日

松田殿○同三年十二月廿日

同三年十月九日京番○同三年六月



月百死字九家葬地同上

定

安永元年九月十日  
安永元年九月十日

葬地

安永元年九月十日

安永元年九月十日

安永元年九月十日

安永元年九月十日

漢

漢書

安永元年九月十日  
安永元年九月十日  
安永元年九月十日  
安永元年九月十日

元

安永元年

葬地

安永元年

安永元年九月十日

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



源姓

源色

源色半為守綱後孫武我國任人

源色圖書清徳三男

宋教九内三皇文字  
九内三皇文字  
高之百石

源色半之郎 日記

章綱

元祿十丁丑年十一月六日又圖書清徳教

少依之多依之音 初年三月五日

十八日也小姓組。享保九甲辰年十一月十日

大納言殿附。同十二巳年六月十五日西九本書院書。  
延享二乙丑年九月本九勤。宝曆二年  
二月十六日老免復令三。女永巳未年十月  
七日死淡草本願寺地中長教寺葬  
九三

久綱

淡色孫八

寛延二年十二月廿日電小姓組。宝曆  
十辰年六月十二日

大納言附。同十二巳年八月本九勤。同十二  
年十二月十二日西九勤。安永同  
十二月廿二日家譜。同八亥年四月十六日  
少本九勤。天明元丑年同六月廿六日西九  
勤。同六年同十月廿一日本九勤。  
寛政元百二年六月廿二日本九勤。同  
新焼有本同月廿二日本九勤。同月  
清免。同三年十月九日老免復令三  
。同乙子年十月十日死七十二歳葬地同上



渡邊幸之助

直繼

言二百石

寛政四子年三月在幕長後口以年三月等

初見

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

○園

家老重鏡  
其言甚苦

及原姓  
渡邊  
先祖不詳

渡邊右玄清

正吉

台徳院邊渡邊山城守形あり右山元在位等  
武百石其後大山青を及死

源七郎右衛門

正友

養有院殿冲代大出番。兼應三年二月廿日

死

美油川源玄浦某二男

源玄浦

正利

兼應三年

十二月廿六日安堵。寛文八

申年六月五日大出番。元禄十五年二月

十八日新出番。同年十二月廿二日加秩。拾俵  
其後病免。享保九辰年六月十九日死

源新八郎

正春

宝永六年四月大出番。西德二辰年三  
月拂方出納戸。同三年九月病免。享  
保九辰年八月十三日甲府勤番。同年九  
月三日安堵。同年九月廿八日甲府出納

○元文乙申年八月十日病免。○延享元年  
八月十日死。○享和元年甲辰年右府中要法寺  
兼

五卷

実録八郎在りたの二男

正順

海老江維教助

○寛保元年六月喪子。○延享元子年  
十月喪子。○寛延元辰年九月十五日拜福  
○明和二年十二月十六日死。○享和元年一某葬地

同上

正明

海老江八郎

三式部百子拾石

内唐来子拾儀

○明和乙戌年二月廿日喪子。○安永二年  
十月廿八日甲府市城番。○天明  
○日系上拜福。同月廿日。○寛政二年  
七月廿日。右为清番格。後府勤番。○享和五年  
月廿日。府勤番。○享和五年





源姓

源邊

萬千五百

家教九日三皇文字

三月廿三日相葉

河原左大臣源融六代孫源邊源次郎

東照十九代源吉左衛門範徳男

源邊六郎左衛門

平六

遠綱

清康君

廣忠君

東照宮へ奉仕。天正十八年七月廿二日於  
前河内州浦島村死七十九歳

真鑑

海老六太夫 平六

東照宮へ十六歳の時より奉仕翌年尾州大工之  
借奉冬別八幡山合殿の時言名其味方  
ヶ原清合殿の時海老半蔵同半十郎  
とつちよけじまくと号じ。尾州長

久手清合殿の時言名その外處々借奉  
其後

右徳院殿前。真田清陣の借奉。慶長六年  
年正月廿六日於別大坂より死六十九  
八歳

海老六郎太夫 平六

生綱  
天正五年  
東照宮へ十六歳の時より奉仕新府清陣借奉

尾州長久手合戦の時名。小田原  
市原園ヶ原陣借事。慶長十八年  
紀伊大網云々附大坂も此陣借事を後  
藤吉の。寛永十二年十二月朔日紀伊  
よとく死年二歳

徳治

初直細

後名豊元

平六

六左衛門

監修 澤中

右徳院初之十位兼此時より在位。慶長十九年

大坂冬陣の長七坂山城を組む借事  
翌年夏陣の時も本之水正に借事  
六月七日合戦の時先少を論と合を  
手負い此陣の時恩賞五百石給事其後  
大坂院御沖代此秋砲加秩武百石を給事其日  
若首院殿より二百俵給事其給事石。寛文元世  
年同八月十日甲府前宰相殿へ請をせられ  
城代新和之子石中知事石給事を嫡又  
年六盛綱一。同三年十二月廿八日



平太夫御前

祐古史。○同口辰年四月六日城代中免。○同年  
同五月之隠居件五束二百俵隠居料。○同  
九百年十二月九日死。七十。三采。浅草門跡  
地中長教寺葬。

籍云

実二男

海色長門守

平太夫御前

直茂

万治二亥年七月十日山小性組。○寛文元  
五年同八月廿八日

清揚院殿附。○同口辰年同五月之妾侍。○延宝

七年二月六日甲府沖城代。○同年十二月

廿八日諸古史。○天和二亥年九月晦日沖

延宝二年四月細書所字有直茂改

妾老役。○元禄二巳年六月廿六日遠志。○

同年七月廿七日卒。葬。美地。同上。

直長

海色織部

元禄二巳年七月廿一日父老急。○同病。九月卒。

土月晦日橋田清俊之次子誠朝之次子清免事初  
子百石名家持與寄合。室永二百年四月  
女六日小普信入。享保二百年十二月十三日  
此為子居不死。同七百年七月廿二日死。事  
葬地同上。

直改

後登傳八郎

享保七百年十月廿日家持。同十八年

七月八日死二十日葬葬地同上

栄直

莫小堂原久光男  
後名也多官

享保十八年十月廿六日急養子家持。同廿  
九年二月廿日。田安沙屋家勤番。元文元  
正辰年八月廿八日勤番也免。同二己年十二月  
甲。西丸也小姓組。寛延二己年七月廿六日  
死葬地同上。

直鉅

清色女官

寛延二己年十月八日奉旨。宝曆八寅年  
二月廿二日死葬地同上

行孝

実古方九乘行曹二男  
清色二子

十五歳

箱助

宝曆八寅年八月二日<sup>急</sup>養子奉侍。明和己亥

直綱

実腹於郎在保春三男

清色六左衛

全孫 三水

高子五右衛

天明己辰年二月十二日<sup>時</sup>養子。同年八月十八日

年二月廿日<sup>時</sup>奉院番。同六年六月十九日  
病免。安永己申年七月二日<sup>時</sup>西丸中世組。  
同七年六月廿九日<sup>時</sup>天明己辰年八月  
十八日<sup>時</sup>隠居。寛政三亥年正月十五日死葬  
六条葬地同上



四年十月廿九日  
家持○同天仁元年  
冲成先帝公仁之  
才的 上院嘉一○同年十月十二日書院番○  
同年十二月七日進物番○寬政元年四月  
女日進物番西免○同天仁元年七月十二日  
○同天仁元年七月十二日

同天仁元年七月十二日  
同天仁元年七月十二日  
同天仁元年七月十二日  
同天仁元年七月十二日  
同天仁元年七月十二日  
同天仁元年七月十二日  
同天仁元年七月十二日  
同天仁元年七月十二日

先世多傳

美定

渡邊伊左門

關原御陣時同心  
四月廿日死六拾九歲麻布道徳寺葬

美勝

伊左門

元和九年家督の官見永土年七月御上落  
供奉の慶安四年八月六日死同寺

美春

文右門

慶安四年十月家督の伊賀者○延宝

七年五月致仕。元禄七年八月十二日  
死六拾歳同寺

美宗 伊兵衛

延宝七年五月家督。正徳二年十二月  
十日  
月光院殿御廣輔伊賀者。享保五年  
五月七日病免。同七年十二月十一日致仕  
。同八年九月廿六日死六十二歳同寺



美之

源姓  
源色

源色伊左衛門美宗長男

源色伊左衛門 德助 文彦

家教九内三皇太子  
高三年傳或我持

享保七年十二月十一日家督。同九年  
六月十六日  
天英院殿出廣者伊賀者。同十五年  
九月<sup>廿日</sup>同不<sup>世日</sup>周初至書院。元文元辰年

七月十二日山内所侍侍○同六百一年四月院  
 小普信○同年六月十日  
 至心院教少廣安活番○延享元子年八月  
 土日出勘定○宝曆八寅年三月二日国东  
 甲州东海道濃州瑞州山内普信所  
 出采采見分山内所令武取时服二○同  
 十二年十一月十日官同郷殿初奉封○明  
 和四亥年十二月九日死七十歳青山梅意院  
 墓

養實

源為伊云清 七 慈 然 助

宝曆十一巳年九月官同郷殿迎留番

高之格依武人技抄

○同十二年七月十日夏皆勤儀儀湯时服一  
 芭蕉布走走○同年同月廿一日小村○明和  
 四亥年十二月廿七日奉替○天保元世年  
 九月十日勘定奉封○寛政二戌年二月十日  
 初奉封○同二亥年七月初。物取○同年



青丸の譜に云く山本如左衛門口年八月九日  
卒組

系船

渡邊徳三助

七三郎

天明八年四月廿八日初見。寛政二戌年  
十二月廿日小十人組



綱頁

渡邊重徳六男

源姓  
渡邊

家教内三屋定字  
幸舟用右馬場  
高三郎

渡邊大隅守 生年未詳 月通

寛永十四年、山書院番。同十一年  
采地七百石。同十二年、父重徳重徳より  
子石多地。正徳元年、正月十日、小十郎  
以後、明暦元年九月十日、山書院番

昌寧七年 庚午  
下

同二年正月廿九日 園東八ヶ國  
同日二月廿七日 今日  
...  
繩...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

元正年正月廿三日大貝舟  
...  
...  
...  
...  
...

酒多平右衛門

年振 平八郎

廣網

...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...  
...

元五年十二月十二日康米二百俵。同二年  
四月日光也借。同土亥年六月六日也書院  
苗<sup>張</sup>。天和元百午六月廿七日大陽  
幸海之府相馬彈正少弼一也。元祿  
三年十月廿四日。石海。九月七戌年六月  
十日康米二百俵小書院。同八亥年正月  
二日拜福。宝永六年六月六日死書院  
麻布祥雲寺葬。

大書院... 大書院... 大書院...

徳貞男

後色安藤子

半七郎

徳子  
定<sup>七</sup>...  
郡... 小... 大陽... 金森  
出雲... 領... 交絶

徳貞男

平岩助左衛門



親綱  
新親... 書院... 大陽... 大関



信濃守(新)道(家)絶

相馬守(公)少(卿)昌(胤)家(長)

美(濃)守(内)玄(善)辰(胤)三(男)

波(多)守(下)平(左)衛(門)

教(之)進

公(總)

宝永六(五年)八月廿(二)日(亥)時(辰)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

元文八(中年)五月(廿)日(亥)時(辰)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

女(次)日(亥)時(辰)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

房(相)

岩(下)守(左)衛(門)

享保(年)十月(廿)日(亥)時(辰)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

寧(綱)

美(濃)守(下)平(左)衛(門)

波(多)守(下)平(左)衛(門)

若(之)郎

源(左)衛(門)

元文八(中年)五月(廿)日(亥)時(辰)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

二(日)亥(時)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

安(永)八(中年)五月(廿)日(亥)時(辰)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

日(年)六(月)廿(七)日(亥)時(辰)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

沖(成)永(教)交(承)永(和)十(一)日(亥)時(辰)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

政(比)子(年)同(二)月(十)日(亥)時(辰)卒(年)七(十)三(歳) 日(年)是(年)葬(所) 波(多)守(下)平(左)衛(門)

美大飛後助安房

源色助八郎

徳繼

与二百俵

安永六自年六月廿六日養子〇寛政二成  
年三月廿七日書院書庫米二百俵〇同  
比子年閏二月十二日養父死同日

〇圖

源姓

安後三郎貫  
源姓  
高三郎  
百

源色

源二綱源胤攝別安倉の位人と在在つ清  
信長少佐安倉よとくむ石石と成と志  
十年年六月二日明智日向子叛逆の別裁  
死其子仁信清定長男

勝

源色後三郎

父定七郎の時孫と成りて山城國に藝居座  
長十三年死其後同十二年母

冲臺所へ石出たる乳ありふりて

東福門院沙乳母其後老衰せしより夜食と

賜ふ死後右の如く成りて是男友二郎座

長十九寛年石出され 駿河大納言殿所

駿河少将と成りて二百石と賜ふ大納言殿所

の後寛永九申年米地收ふと成り月俸

十石と賜ふ同十九年米地二百石賜ふ

大出音の正保三年二月十七日死年一  
本所清雄奇英

後意右郎左衛門

茂

寛永十三年<sup>廿</sup>初見○用永十年六月十一日

大出音○万治二年七月九日二條ふと成り

死年三歳



升

海老原三郎

奉振  
甚如

万治二亥年一初見。同年十二月廿五日  
○寛文六亥年二月廿九日大出番。元禄十  
五年二月十八日新出番。正徳六申年  
二月死。年二采葬地同上。

和

美藤公郎  
海老原三郎  
友之助

延寶七未年十一月十六日養子。同八年  
七月一初見。元禄六酉年十二月九日大  
出番。同七戌年十二月廿九日大出番。宝永  
六子年六月十九日病免。享保元申年  
十月二日。安治。同八年六月十二日死。  
年二采葬地同上。

治

渡邊友三郎

享保八年九月二十日  
同日土平年二月  
廿八日為丸新島  
元文二年四月十日  
十二月廿九日  
同日三年四月十二日  
元文二年四月十二日  
元文二年四月十二日

久

渡邊勝之忠

元文三年七月二日  
安永元年七月二日  
安永元年七月二日  
安永元年七月二日  
安永元年七月二日  
安永元年七月二日  
安永元年七月二日  
安永元年七月二日

茂

渡邊多吉

元文八年二月十八日  
養子  
安永元年

十月八日家傳。同九子年八月十二日死二十  
口兼葬地同上

安永田代公清義の男

源色重常

俊孝

宜

安永五子年十月日。急言三百石。天明

元五年十二月廿二日。初見。同日七年寅

十九日大山番。官設。年十月。立。保。事。所

用物。係。中。向。時。辰。全。夜。日。年。十月。廿。日

病。之。日。九。年。十月。廿。日。年。十月。廿。日

章 中

寛政元年十月三日

源姓

源色

先祖不詳

源色重常

某

天正十年年十月日。急言三百石。文禄元

辰年加禄百俵。慶長九辰年。或百俵

加秩大山番。同十四年。田代。惣七。事

論。以。の。揚。揮。小。志。の。切。り。不。し。り。番。と。為



新に仕立百俵收ふ長子後玄湯入  
月俸二十口〇同十八戌年十一月廿九日死

後玄湯

某

慶長十四年八月俸二十口〇同十六年  
年四月十日死

後玄湯

某

慶長十六年八月俸二十口〇同年十二月七日  
死十四歳歿也

後玄湯

某

寛永元年八月俸二十口〇同元禄元年死  
二十歳月俸二十口〇同元禄元年死

源二綱十八代後孫源豊好親惣領

光輝

源豊好親

源二綱十八代後孫源豊好親惣領

源二綱十八代後孫源豊好親惣領

源二綱十八代後孫源豊好親惣領

源二綱十八代後孫源豊好親惣領

源二綱十八代後孫源豊好親惣領

源二綱十八代後孫源豊好親惣領

源二綱十八代後孫源豊好親惣領

守

武田小住甲州が頼小居任天正十年奉勝  
頼波落の後信長の時代よりて川尻  
肥前甲州より奉了屢使して信長小居  
せんより知るに源二綱小居と



東照文小祿福小月言と兼是立所よ詢り給小  
武田家乃諸生川原肥前と攻之し申州  
空國とありしとあり

東照文後府より山馬中橋口より山後向此條氏  
直より信州口より出張は付山中此郡導と  
命をこれ一様家人と志すのし新府城ま  
傍を此所より在るふ詢り甲後乃境守一  
令と兼る内途小田原勢那月小入り吉田  
村西の湖村精進村の浪人百姓おと一様

小中橋口打破るより若年たより内途  
より引延し其より大久保新十郎に控く  
云ふとよりして安政孫市郎加勢とせしむ  
其小中橋口小入りく二事ふ分れ小田原  
丸尾山まきく追詰め挑み幾首級と成る  
孫市郎十一因獄依り小十三敵引退く小  
より首級と新府小秋一以類ありし傷の  
より山威よあはるる天正十年七月十日  
より十七日足利同公三千人と屬し



有原出棟  
 西田厚吉  
 中藏左衛門  
 北条隆房  
 年徳海三景

坂登清乃西朱官を初い日十二年不取の  
 西朱官と揚入 昭下 官加録百本  
 或貴八十又千後山田京多別西津津倍を  
 文祿二己年四月十九日武州夫貴人にとりく  
 死

安 長

浪多國獄

西吉

慶長十九寅年大坂表西長向の時成瀬

年人正小松く倍存せんふとくいしに浪津  
 一公甲駿の境警云流とくし令せり  
 ありし鉄炮大拾挺或具お其地小五と

台徳院殿内令とある元和元年夏津津の刻  
 大坂おとる落城の後西宮は津津あり東慶  
 甲しりか寛永十戌年津上洛の刻は府小  
 白丸布柄口のおき倍前めとく甲府大士と  
 ころる令とくし令せり津津の物取の  
 並小候く二男との世く西小津組小石出する

堺警備の西朱官を初め日千三年石原の  
少将... 四年七月海軍加納百幸  
少将... 文禄二巳年四月十九日武州夫貴に...  
死

安長

後多因獄

西青

慶長十九寅年大坂表の戦いの内成頼

西原康徳  
西原康徳  
西原康徳  
西原康徳  
西原康徳

年人正小姓く侍奉せん... 今せう...  
甲斐の境警備... 今せう...  
... 其地小...

台徳院殿内令と... 元和元年夏...

大坂... 甲斐... 甲斐... 甲斐...  
... 甲斐... 甲斐... 甲斐...  
... 甲斐... 甲斐... 甲斐...

寛安二年八月廿九日卒。死年七十一。葬今所。

三男

源色侍四郎

虞<sup>アラ</sup>

万治二年四月廿七日。別家。右筆。○天和

元年十一月。若菜組。及。○貞享二

年九月。女。病免。○元禄十五年。月

八月。女。麻布大泉寺。葬。

恭

実中別漫人上原基太郎信長男

源色侍八郎

元禄十三年十二月廿七日。大。○享保十七

年二月。女。老免。獲令。○元文三年

六月。女。死。七。葬。地。同上。

博

実海井六三源藏永三男

源色源二郎

新十郎

氏社



享保比亥年七月十日。卷子。同十六亥年  
 土月十日大出番。元文。元年十月十日吹上  
 大の時後二。同三年。八月十日。元死。同  
 日。又申年。八月二日。代友。寛延元。元年  
 七月十日。初解人。未聘。出用。時後二。日三年  
 様町院。沙法。来。出用。同。年。七月十日。在。令。或。取。○  
 宝曆十。元年。二月。晦。出。廣。表。番。三。日。日。上  
 三年。八月。三日。一。統。小。當。法。同。十二年。年。同  
 四月。廿。四。日。大。出。廣。表。番。三。日。同。和。六。世

年十月十日。為。九。勅。○安永二。元年。同。二月。廿  
 四。日。傳。出。用。廣。表。番。三。日。同。又。申。年。二。月。晦。日  
 日。以。同。八。亥。年。二。月。十日。西。九。大。出。廣。表  
 傳。出。用。廣。表。番。三。日。同。年。四。月。十日。○  
 九。勅。○天。明。元。年。八月。九。日。老。免。在。令  
 〇。同。二。年。年。正月。十日。死。葬。地。同上。八。攝。木

英

渡邊左次郎

左次郎

字二百俵

宝曆九年二月十二日初見。同日十辰年  
十月廿五日。吹上騎射五帖三。安永八申年  
十一月十九日大西表。天明三年正月十八日  
又死日云。

履

酒色多右衛門 幸九郎

寛政三年二月廿日初見



源姓

家教三交錢  
其年右

酒色

酒色久九郎 善二男

酒色久助

均

慶安二年八月又善七子存の目右  
白地。同年九月山書院為。延宝二年  
涉使番。天和元年山役と免さる。元  
禄十年二月六日死。其妻山岳寺小宗子

敬

実松平主之助康福二男

源多道次郎右衛門

元禄三年年八月又自養子。日十廿年  
七月十日亥時。日十一寅年八月十八日酉小  
世組。日十四巳年二月十五日相。日廿五  
。同年七月廿七日酉。元禄永元申  
年二月十日。辞免小室多。同年六月  
十日酉世組。日之戌年遠州掛川城

引酒沖用。享保十四年七月廿二日  
死。同日寺小葬。

実松平周防守長

情更領部用康福二男

源多道次郎右衛門

雅

享保二百年十二月十二日。其子。正徳二  
辰年二月廿七日。初見。享保九辰年七月  
廿七日。書院為。同年十月十七日。二九勤。  
西九勤。同十巳年十二月。西九小納戸



日月十八日布衣。同日百有年。壬戌九月十九日  
亥時。元文己未年十月六日。西九月十九日  
。日年十二月十八日。叙爵。延享元子年  
八月朔。死。同日奪。一。亥。亥。

平

渡邊唯次郎

延享元子年十一月。亥時。至曆二  
中年六月廿七日。書院番。日亥亥年

十二月廿七日。病免。同九年六月十一日  
西九月書院番。日十辰年四月朔。

大津新附。同十巳年八月。西九月勤。日三  
午季。壬辰月廿九。辭免。小書院。安永二巳  
年八月朔。死。早。早。日奪。一。亥。亥。

直

渡邊伊之郎

高子石

安永二巳年十月。亥時。

Handwritten text on the right page, likely bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible due to fading and bleed-through.



源姓

源色

源内義助乳男

乳秀頼其坂之腹

家義三平貞房百目丸

三平貞房百目丸

其五百石

守

源内校玄傍

大坂落城之時當歳小く乳母の乳有るは  
鞍馬に養ふ少く隠進養育せし乳成長  
の後寛永年中其女を承他五百石沙  
名子。元禄二年年尚りて其女死す七千

元禄七年令他院小宗子

勝

海迎控玄滿

元禄七年十一月十八日甲子府小宗子

文服定殿小宗子同日年十二月令小宗子

元禄七年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子

同日年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子

同日年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子

同日年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子

同日年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子

同日年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子

同日年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子

統

元禄二己年九月十日攝關少宗子

同日年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子

同日年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子

同日年十二月令小宗子同日年十二月令小宗子



享元年四月廿六日免御令。至曆十  
辰年九月廿六日即位。明和元年二月  
十五日死。年八十八。葬同寺。元安丸

渡邊権玄湯

定

寛延二年十二月廿日西丸中住組。  
至曆十年四月朔。  
大市所附。同年九月廿六日改修。同十一

日蓮宗青喜 齋翁

己年八月廿七日中丸勅。明和二年九月  
八日死。年七拾二。葬同寺。元安丸

統二男

森半十郎

隠居了因

某

妻孫左郎某養子中成爲仕の後長男  
一孝三氏家書安永二年八月廿六日

絶

登

酒造部

天和二年十二月廿五日  
八月十日  
永元元年四月廿九日  
天和二年二月廿一日  
天和二年七月十日

明

酒造部

監物

天和二年十二月廿七日  
天和二年六月八日

均

酒造部

言五百石

天照六年九月甲子年春皇子。定及  
六年二月廿二日。西ヶ原沖用。及。及。及。  
高馬。上。上。上。

天照六年九月甲子年春皇子。定及  
六年二月廿二日。西ヶ原沖用。及。及。及。  
高馬。上。上。上。



源姓

源名一

家紋 柳内三星

三本骨三番

高千穂

尤大長源融云云代源辺内舎人 総十九代  
源名源次兼綱長男源辺清在事國  
總二代孫在事之代長男

久勝

源名孫在事

之水

長二百年二月廿二日。西ヶ原沖用。及。及。及。



○日壬午年文の米市存知抄のりりりり

東照宮命よりして右出され批州一志那の内  
米地石と物いお合とるり。日十四日年  
三月。沖米市と物い。元和又未年  
八月。米地と替へは別箇に於の月  
くゆら。日六甲年十二月十二。死を早  
ハ兼下首廣徳寺ふさきり日八甲年並後  
行徳の地申松溪院ふ改変

久次

渡色孫助 子菊

元和六甲年同十二月晦。夜替相違り  
揚るる名河能傳中書札とんまきと  
日七甲年徳目の西札とんまき

古徳院為之稱揚子後

大徳院殿附山書院為の寛永三五年七月

山三洛借書の日九甲年二月

台徳院殿沖道相令事由物云。同十周年二月  
 七。加秩百石。同土戌年六月。出之洛儀  
 〇正保二百年六月廿九日半人改。同年  
 十二月廿九日布衣。慶安己卯年四月廿六  
 日光山  
 大徳院殿沖道骸出遷。元徳元年。明暦二百年  
 十月廿六。駿府町事約加秩二百石。元  
 文六年年九月廿六日死。享年六十。松溪院  
 〇交款

久永

渡邊孫助 九助

寛文己辰年四月。出小性組。同六年年  
 十二月十五日。家督。正至八申年九月。同  
 出船。出被損事約。天和二戌年正月  
 去。出半人改。同年四月廿六。友縁百石  
 加秩。〇〇〇〇。二子。石高。〇同年十二  
 月廿七日。布衣。貞享元子年二月廿六。

清水車造の元禄五申年十月九日病歿  
芳合〇月十三辰年三月廿五、死を卒  
八歳日年小葬たり

海名六巻の 外化見 孫在房

永倫

八十郎

天和二年四月十九日幼少也。元禄四年  
十二月子小姓組〇月十四巳年七月九日  
家傳ニ衣乃月百石 茂助ニ郎

多他。同十六未年靖久。石をけりて去る  
古う。大地震少く。水石垣大板の場所  
水害を請たり 慶永元申年十月廿日  
慶安令と敷時後之。日三戌年二月廿日  
水院以。日年十月廿九。西丸勤。同年  
十二月十九。布衣。日七寅年正月十一日  
八月廿。心使同午年十一月廿七。未未四月  
東照家百圓 沖忌水法奉也用。日又未年二  
月廿四。日之く。水院同年四月廿日。均福



享保二百年十一月十日肥前長崎藩  
 豊前藩前之沖ノ邊浪の悪私并掃出  
 日年日月廿八日西海令千枚時後二羽織  
 日己亥年四月十日物備○月九辰年  
 四月十九日新水島以○日十辰年七月廿九日  
 大坂西之番川海島令之枚時後二羽織  
 ○日年九月十日物備○日十二辰年  
 十五日長崎藩約○日年七月廿九日西海令  
 十枚時後二羽織日日叙得出三三三○日十二

申年十二月十日物備○日十四辰年五月  
 十日死を六十二歳日寺に葬る

久保

如和

渡邊外記 孫左衛門 内記

西極巳午年二月七日初見○享保九辰年  
 七月廿九日小仕組○日十午年二月廿七日  
 小倉京山麻村侍奉瑞馬場子○日十四日  
 八月十日夜替○迄其又二辰年四月十四日

死之日年五歲日守小葵子

實和邦九系元老名男

渡邊外記 水内記 秀之助

久麻

久麻

延享二年二月廿九日養子○同二年

七月二日改姓○同年十月廿五日中興書

○延享十一年四月十日改姓○同年十月

十八日布衣○明和二年十月廿七日病免

書合○同二年十月十九日死○年二歲

日守小葵子

久麻

久隆

渡邊之水 國太郎

延享十二年二月十日吉初見○明和

二年十二月廿七日改姓○同六年又

月九日書院為○同年九月廿日改府

立書院○同七年十月十五日始獨○

同九年十月廿九日次上右的村後二○

同年十二月十八日中興書局。安永六百年  
十二月十二日西丸山入院。同年内月十八日  
布衣。同八月亥年四月十六日一回。同  
九子年三月五日。水使番。天照元元年八  
月十二日。死。七。二十。五。年。同。年。小。英。方。

後名直水

勇五郎

久武

三子百衣

安永七戌年六月廿四日。二男。惣。次。天照元

丑年十一月四日。夜。替。寛政八辰年六月  
二十日。小。姓。組。同。九。巳。年。四。月。十。八。日。吹。上。騎  
射。及。物。三。



久

宗被輔内三皇子

幸舟三舟

源姓

源色

高五郎

源色孫助久永二男



源色宗右衛門 九門助節

久助 久雅

元祿四年六月廿七日新鏡石出之箱

之箱也番原末之右儀。同年九月廿五日

水小納戸。同年十二月十九日水小姓。同又

申年六月十日水書院也。同七年戌年十月

廿二日病免。同日己年七月九日又承  
 高子衣の月五首衣の地。正徳三己年  
 三月十九日。山書院表。享保二己年官  
 十有。あゝ世見。山用。山服。令。古。牧。時。後。三  
 羽。羽。同。年。六。月。九。日。瑞。福。同。十。三。年  
 六月廿七日。官。少。人。改。同。年。十。二。月。十。日  
 布衣。同。千。七。子。年。同。乙。月。廿。七。日。少。人。年  
 少。人。以。享。保。二。己。年。二。月。廿。九。日。少。人。年  
 九。年。布。衣。種。姓。他。中。松。溪。院。表。免。年。

美濃守の永倫三男

久敷

海老名九門 公郎

享保七己年十二月九日。享保二己年  
 二月廿三日。初見。同日己年九月十  
 九日。山書院表。享保二己年二月廿  
 八日。安永八年十一月十二日。死。年  
 三。年。同。子。一。年。免。年。

久年

海老助三郎

八十次郎

延享二五年十月十五日初見。安永六  
酉年七月十日病丸小姓組。同八年  
四月十六日病丸初。同年十二月五日  
病丸。天明元五年六月五日西丸初  
。同四年十二月十九日病丸。享和七  
卯年四月被仕

久

美船田吉助正花三男

海老義八郎

久泰

高五百石

天明元子年六月一日算養子。寛政  
七卯年七月廿九日家替。同八年正月  
丸小姓組。



*[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*

圖

源姓

皇教萬葉

○大御所御海色

西宮子三皇

大長融後流近江守長海色子右衛門

重男

勝

海色後子

可部秀吉・信之・信小速水元吉傳と改め慶

長二成年

東照宮へ正出され攝津守統右衛門三右衛門

東照の月又子年関ヶ原少陣の兵物命の依

と云ふ事

右徳院屬小属の事と曰す七年叙爵し

海を後海と稱す

天樹院屬小属の事と曰す此長意長少力

と得たるの寛永二寅年右少力

右徳院屬小属と曰す

大猷院屬小属の事と曰す此代考命の事

命と曰すの月年六月七日と云ふ事



下長廣徳と云ふ事

勝婦 二位局

豊后太閤小仕二位小叙と云ふ事  
の授判發して宗業と稱す寛永六

六年六月七日と云ふ事

寛永六年六月七日と云ふ事

実後卿と云ふ事 永元男 臣居藤原

後海と云ふ事 右少

正

政氏 長考と云ふ事 実後卿と云ふ事 永元男外孫と云ふ事 臣居藤原中納言利常在

元和六年 初見。寛永三年 一。寛  
日九申年 一。

教育院 教部代 一。此中 付組。慶安 四年。

大猷院 教日 元 一。此中 付組。慶安 四年。

日 一。此中 付組。慶安 四年。

教部代 一。此中 付組。慶安 四年。

日 一。此中 付組。慶安 四年。

教部代 一。此中 付組。慶安 四年。

日 一。此中 付組。慶安 四年。

表 一。此中 付組。慶安 四年。

日 一。此中 付組。慶安 四年。

教部代 一。此中 付組。慶安 四年。

日 一。此中 付組。慶安 四年。

教部代 一。此中 付組。慶安 四年。

日 一。此中 付組。慶安 四年。

教部代 一。此中 付組。慶安 四年。

日 一。此中 付組。慶安 四年。



延喜二百年二月十七日。日之出。目射の日。申  
 御年二月九日。老免。後任。長。免。料。音。後  
 子。及。言。二。子。衣。の。日。嫡。男。直。く。二。子。三。百。石  
 次。男。右。左。衛。門。右。衛。門。三。百。石。九。右。衛。門。直。之  
 三。百。石。分。地。天。和。二。年。十。三。月。廿。七  
 日。死。す。二。百。石。の。家。有。る。

眞

源 通 光 氏

嚴有院。院。中。代。出。云。院。番。〇。延。喜。二。年。十。三。月  
 六。日。改。葬。〇。天。和。二。年。十。月。廿。七。日。死。す。二  
 百。石。二。孫。海。老。又。不。保。守。小。孫。有。る。

忠

源 通 光 氏 孫 守 郎 氏 右 衛 門

天和二年十二月廿七日。日之出。目射の日。申  
 御年十二月廿七日。老免。後任。長。免。料。音。後  
 死。す。二。百。石。の。家。有。る。

実乃其書年所正書

海邊古書

泰

皇承應年中其書

享保十九寅年三月廿三日

卯年八月廿三日

三月廿九日

卯年八月廿三日

直

海邊古書

萬壽 陽曆 小曆 一瓢

至曆元未年三月廿三日

十九日

卯年十月廿三日

卯年十一月廿三日

卯年十二月廿三日

卯年正月廿三日

卯年二月廿三日

幼福。安永八年申年四月是也。社系供奉  
○同六年六月廿六日。林哀清同八月  
少。少海時被羽織令お授。同月廿六日  
齊九月十九日。飛後もて。栞と。日七戌年  
八月廿。少馬揚ふ。日八亥年二月  
後桃園院皇女。女つま。少陸徳の節。少産夜  
と揚ふ。日九子年八月廿。少ると揚  
とら。○

後桃園院。少葵。少の。少泉。少浦。少寺。少と。少供。少と。少遺

物。少て。少花。少籠。少令。少と。少枚。少揚。少  
當今。少中。少少。少信。少出。少来。少の。少良。少獲。少美。少と。少と。少  
十。少軒。少和。少款。少一。少物。少と。少ゆ。少

盛化門院。少乃。少清。の。少節。少也。少遺。少物。少少。少花。少籠。少と。少揚  
とら。○天。少昭。少は。少在。少年。少上。少月。少各。少府。の。少節。少也。少  
紙。少令。少と。少枚。少揚。少と。○日。少年。少上。少月。少廿。少九。少日。少系。少上。少孫  
福。○日。少又。少巳。少年。少三。少月。少廿。少九。少日。少病。少死。少寄。少合。○  
日。少年。少上。少月。少廿。少九。少日。少被。少仕。○宣。少後。少年。少四。少月。少廿。少九。少日。少製  
一。少歌



孝

渡部忠尚

孝次郎

子或子二百石

天明己巳年五月廿八日卒。同六月卒。

三月言尔小性組。寛政己子年十二月

六日大坂出目代。同己丑年正月廿八日卒。

令及叔。同年十月朔日。同七月卒。

正月廿七日。同年十二月十七日。同七月卒。

同八月十八日。同八月十八日。同八月十八日。

或叔时按二。同年十二月十五日。同十五日。



源姓

源色

家後内三皇

表萬

高千穂老名重隆

源色源次孫後孫源色孫後孫信任孫

國司北畠家三直所二子右と順と信城と

甚右衛門朝二男

勝

源色孫三郎

天正十九年

東照宮(古出)北武藏國那蘇郡二俣川村

國在京都與河村少く二百石拾石と賜い  
て後所々加秩ありて七百石積石余とある  
○小使書大坂支多と陣借東首級之旨  
○元和乙未年加秩之計以肥後の城地一上  
使○日六申年九月廿九日死と甲申八歳  
同出葬

美濃田信雄

海田五郎左衛門秀長男

海田五郎左衛門孫三郎

隠居道楽

### 富次

和富

元和六申年養子と改姓○大坂番組次○

寛永二五年沖米市と賜入○

首級

大藏院殿沖代小使番○寛永十申年加秩二百

石○

藏有院殿沖代老免宗合○延宝二年奉給仕  
俸五石三百俵書免料と賜入○日又  
十月十日死と七年八歳武州二俣川村長  
安寺小墓あり



定繼

渡邊九玄傳

大納院殿中代大内番。寛文十二年十二月  
六。大坂水難之死。年七十。卒。

弘綱

渡邊甚右衛門

寛永二十一年六月廿七日。小姓組屋敷  
二百俵。得入。延宝二年。改格。○  
同五年。正月。才。五十五。卒。年。三。歳。没。于。淨。念。寺。

富義

渡邊孫三郎 忠四郎

延寶八己年七月十二。夜。格。元禄八  
年六月。才。出。書。院。番。同十五年九月  
廿。元。遠。國。若。村。城。川。海。出。用。宝永二  
年六月。病。免。元文二己年九月十四。卒  
九。采。海。邊。淨。念。寺。小。次。子。

実父保長十郎右衛門二男

後身勝次郎

後身人

改富

享保二百年四月十九日養父。元文二己年  
閏十一月二日改養。同年十二月四日西丸山小  
仕組。延享二己年九月初。本年九勤。竟  
二己二己年十月十八日供与。同日七日。復養  
時後三。至曆。以成。是月十二日。任有。因  
直次郎。仕。玉。作。付。て。成。付。本。番。沙  
同。年。有。付。本。番。沙。同。年。有。付。本。番。沙

先小。當。入。名。和。同。年。八月十五日。名。和  
少。免。同。和。三。己。年。四月十九日。死。之。年  
三。己。年。四月十九日。死。之。年

富榮

天和三己年七月。同。改。養。同。日。亥。年  
二月廿。由。書。院。為。安。永。元。在。年。八月十日  
為。改。改。天。明。六。年。年。八月十八日。死。之

後身忠太郎

早八歳日守... 葵歌... 八日...

渡邊龜之助

富做

子立拾名二斗...

天明六年冬十月十日...

六寅年二月十日...

後八月八年...

元和九年...

...



家教甚繁

三星一

源姓

高四官名

渡邊

渡邊後吉勝長男渡邊後吉正

源次男

渡邊忠玄

祐

會

明曆三年六月廿五日初見...

七月去新親...

五年十二月十二日...



十二月廿七日百石義流後より多岐原末三  
百俵之收也。元禄十一年六月十八日死  
六拾六歳中谷廣徳寺小葬す

夫は色を希す直三男

渡邊十次郎

任織

朝

延宝二年六月之巻子。元禄六年  
年十二月九日書院是年官其言。同十一年七月  
十八日家督。同十二年四月十日病死

○寛保九年八月十日甲府勤番。日守  
九月七日水師舟福。寛保二年三月十日  
死。七十一歳甲州岩倉村大泉寺葬す

訖

渡邊豊之助

孫膳

寛保二年八月十日家督。延宝二年  
年四月朔日糸上拜福。宝暦六年  
八月十日死。四十四歳同日小葬す



賚<sup>千カ</sup>

渡名忠多坊 豊太郎

高四百石

寶曆六子年十一月四日。改修。日十石。年  
七月。勅。系上。祿。賜。安永八年。正月。廿日  
お。配。版。部。平。次。郎。長。田。勘。解。由。水。尋。の  
り。り。り。七。江。戸。八。石。公。付。道。市。元。保。日  
月。廿。日。江。戸。八。石。公。付。道。市。元。保。日  
日。年。二。月。廿。日。改。修。十。石。寛。政。八。辰。年

三月十四日。西丸。書院。番。同。十。年。又。月  
十四日。奴。州。上。院。又。物。二。反

幸

二男惣領

渡名忠多坊

幸助

安永六酉年八月八日。二男惣領。寛政五  
年十月廿八日。杜。濁。小。於。く。氏。州。見。分。日  
年。二。月。廿。日。同。年。十。二。月。廿。日。甲。府。勘。番  
廣。米。二。百。俵。日。六。宣。修。八。月。十。二。日。系。上。祿

得月九巳年二月十二日示小性組

*[Faint, mostly illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side]*



家教三皇子

高之百集

源姓

源多之半云坊判總卷子

源多之半云坊

傳十郎

明

表文米多傳別總初卷行分文米多坊

直伝

東照宮一葉社...長十八戌年六月十



東照七古卷文列徳文直徳小左三之辨別兼右  
 小左之我死後之系七郎之傳明初孝子  
 其祖文直徳嫡孫承祖之傳直徳二男  
 八郎之傳勝徳二男忠順と云々之直徳忠徳  
 相續之傳之明小左文八郎在東之勝徳忠徳  
 一寛文十六卯年十月十八日有衣巻と  
 命せし是日十七辰年十二月之廣末二  
 百俵と賜ふ。元禄二己年十月八日死と  
 八十歳東門跡地中長教と云々云々

勝

渡邊七郎玄勝 四郎在東 新七郎

寛文十亥年二月十日 出右巻。同年  
 三月朔。拜福。同年十二月十日 武百俵  
 〇元禄二己年十二月 〇有衣巻 出右巻  
 〇日七戌年十一月九日 有衣巻 出右巻  
 和国書也 有衣巻 〇同九子年十一月廿日  
 加授百俵。正徳己午年九月 廣末小左傳



○元文三年九月二十日死。八十三年。同日  
卒。一葉子。

護ウズシ

渡邊七郎三博 本記郎

宝永六年四月廿日大出。元文三  
十年十二月四日改葬。宝亨二年  
正月廿三日。同日年八月廿二日死。  
享年七十一。谷龍泉寺小葬。歿。

蕃ヘダツ

實山田村三郎直貞三男  
渡邊政太郎

年月不知。寶亨二年八月二日改葬。同日之寅年  
十月廿九日大出。寶亨元年六月廿日  
卒。享年七十一。東門外地方長教寺葬。

棟

天國和善奉壽無二男

渡邊八郎右衛門 内務卿新次郎

三之百俵

養子 寛政六年九月三日

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



方

源姓

渡邊

宗教三皇文字

三皇骨三扇

高五百石

渡邊源孝寺傳後胤渡邊傳大寺

某嫡男

某

渡邊吉大寺

台徳院殿

大猷院殿 為所代寺位

實錄其書高曾

渡邊其七郎

某

大藏院殿沖代大出兼收授内通院組唐米

式百儀之賜人。寛永二五年八月廿七日

死之而合万昌院葬る

寛永二五年八月廿七日

實武卷其書高曾

渡邊其七郎

其在書其七郎

武

寛永二五年八月廿七日

寛永二五年八月廿七日

年七月十九日新出書。同二五年十二月

廿六日加秩百十儀。病免。元禄八年

七月九日致仕。同九年六月十七日死

同寺一葉不

同寺一葉不

實仙波右郎長行二男

渡邊其七郎

助三郎

盛

貞享二五年八月廿七日



七月九日亥時。同十三辰年六月廿五日  
大出番。宝永元申年七月朔日相之男  
出番。同年七月廿八日小納戸。同六  
丑年二月廿日新出番。正徳元卯年七月  
晦日小出番。方加秩百俵。同巳午年  
二月十五日拂方出納戸。加秩五十俵。夏  
保正亥年六月廿六日元方出納戸。加秩  
二百俵。同十五戌年六月廿八日二之九  
出番。夏保三亥年二月廿日乞免番。

合時後之。揚入。正亥巳卯年十月  
七日。是八十三年。同守小出番。

元  
正徳元卯年  
渡邊久右衛門 後十郎 福徳

夏保十二未年六月廿七日。出納院番。同  
十三申年四月日。是湯社系。保正。正亥  
巳卯年十二月廿日。出納院番。正徳元卯年  
九月二日。道守。同巳戌年九月十日。道

奉納の事あり。安永大申年七月廿  
二日九日申居。同年十二月十日布衣。  
天明二年七月十一日病免。同日  
十月十四日死。七十九歳。同寺小葬。

進

酒造大業 九進 隠居 松前

宝暦十二年十二月十八日小姓組。安永  
五申年四月日光寺社系騎馬供奉。天明

二年十二月卒。家譜。同七年九月  
廿二日病免。寛政元年四月廿二日没  
仕。同八年九月卒。死。七十九歳。  
同寺小葬。

彌

実因後女家受二男  
酒造勲員

高六百石

安永九子年九月十九日卒。寛政元  
元年大葬。

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



源姓

源色

家教月日

丁子車

高百俵立替

村上常俊胤赤松次郎入道村十二代  
の孫外國嫡男七郎村景倫前和家  
友也村小替在又播州源色不居白依  
源色之次男京男源色之市云播州政  
界之長男 則志平播磨守眼家

別智

源色之次郎 如菴 立軒



父と有徳院殿稱徳とあり九月十日卯年十月十日  
 有徳院殿稱徳とあり九月十日卯年十月十日  
 西元大奥御用令せりとの定見也元存存  
 とあり家業せり不世有子二七年八月廿二  
 朝と妻の子とあり次男立篤と須巻子  
 有徳院殿稱徳とあり九月十日卯年十月十日  
 西元大奥御用令せりとの定見也元存存

同十月廿八日死とあり二十二年没とあり  
 一妻心

著生

引香書  
梨香書  
家生書  
浦玉嶋子  
 渡名池之軒 道軒 長古郎

年八月廿二日卯年十一月廿八日初見。日六子  
 年八月廿二日卯年十一月廿八日初見。日六子  
 西元大奥御用令せりとの定見也元存存  
 西元大奥御用令せりとの定見也元存存  
 西元大奥御用令せりとの定見也元存存

孝恭院殿冲俊と節せりり日年十二月十八日  
法眼の日乙卯年日先借孝と命せりり  
日安永九子年九月十日死と字十二某  
日年小某と

皇孫高則時男

嫡孫

法名立剛

立剛

久右

蕃久

言百儀を人扶

安永六年十二月廿日初見。日九子  
三月廿日此度女中病用勤心有り

命せりり。日年十二月七日交後壽命。

日月名更醫師。天明六年甲子月

十六日法眼。日七未年三月終。

沖基所消。日八申年二月十八日

貞恭院殿消。寛政元自年同六月

女古。淑姫君消。日巳子年二月廿

芳名



源姓

酒色

先祖不祥

宗教九言星文字

九言指

萬言儀

酒色言三郎

武官處

定心

天正十年年

東照文甲州清入國付石出之甲州系物也

此言合之別也及此系中系地と物入

甲斐公の志長信州之系因之命也



右徳院殿真田城く小出馬の討供をすす命  
 六ヶ石山案月津内陣後甲府町事約の  
 盜賊事約の沖城旦の代友の死境死事  
 甲府龍王村慈恵寺葬

定勝

渡り廻る事

右徳院殿中代事約の石大坂内陣供奉  
 甲府陣後甲府盜賊事約の寛永二年  
 月事約同寺

甲府龍王村慈恵寺葬

定俊

渡り廻る事

寛永二年十二月夜盜賊事約の  
 寛文元年十月江戸へ古事約

清揚院殿附の同二宮事八月甲府町事約の  
 天和二年病免の元禄二年二月事約  
 甲府小旗く死く七徳院同寺

定別

渡邊孫次右衛門

天和二年十月朔日松田山殿少主人組  
。同月十二月朔日初見。同二年七月  
。納戸。室永元申年十月十日西在度  
。安海島。日又子年十月十日病免。  
正徳又未年十月廿日死布ヶ谷宗泰子  
一ノ孫也

定別

定別元  
二天保八渡邊孫次右衛門

渡邊孫次右衛門

右左郎

貞享又右年二月廿日松田山殿少主人組  
。卷之三。元禄十五年十二月朔日松田山  
。人。日十六。未年二月廿日初見。室永元  
。年十二月西在度補添島。日七。貞享年正  
。月元。孫次。正徳元卯年十二月廿日  
。加授五拾俵合百五拾俵之。正徳。日二辰

年十二月七日小納戸が縁石を拾債より  
くすまの縁石百俵。同乙未年十月廿日又  
死する傍より縁石拾債より。享保  
元申年六月十七日一統小納戸。同乙未年  
八月より死す同日年小納戸。

渡邊延次右衛門

定利

享保十一年十一月二日渡邊○日十又成

年乙未九月。拂方小納戸。寛保元四年  
六月十四日小納戸組久。寛延二乙未四月  
乙未納戸。寛曆六乙未二月廿四日。西九  
勤。同十辰年二月廿八日元方小納戸。同  
日十乙未八月廿四日。死す乙未四月廿日年小  
納戸。

定安

渡邊延次右衛門

甚左衛門

享保十一年三月廿七日



宝曆十三年十一月六日改号。而和六年十二月十日改号院为。元及元元年二月廿九日改号早六条日号不系也。

定祥

源色其助

三三百俵

寛政元元年八月之改号



源姓

家紋丸内三皇天字

源色

丸内酢俵  
高正格俵五之持

之祖不祥

源色作正辰  
東學堂在留俵大坂  
所傳打先將正元正院並生長七  
歳多持下

正元

源色仁左衛門

寛永元子年改号。正元。同十二年

五年二九月改号。同十八年九月十七日

死。之。田。宝。祥。守。不。系。也。



正重

渡邊仁右衛門

元禄六百年女家持〇二九〇西〇年〇辰〇花〇  
七戌年二九〇大〇香〇同十五年日所  
涉门〇流〇香〇月十日巳年表〇大〇香〇同  
十八年〇表〇大〇香〇同至永二百年涉  
本丸〇西〇廣〇浦〇流〇香〇同六月丑年竹娘表  
西〇廣〇表〇流〇香〇同享保九辰年同四月

女一日病免〇同年十二月女〇日〇致仕〇  
元文二年年九月死〇同寺〇小〇死〇

正明

渡邊長三郎

享保九辰年十二月廿五日〇女〇持〇〇〇  
元子年八月〇西〇勘〇定〇〇〇至〇曆〇九〇卯〇年  
十月廿二日〇小〇菅〇傳〇入〇安永七戌年十月  
十日致仕〇同八月亥年十月十九日死〇

同寺了齋系

正倚

渡名田十太夫

宝曆乙亥年十一月六日勅定。同日七  
年上乃筋国东筋川之水高信江戸  
掛。同日十巳年

信院教沙送突水法奉水用掛。同日十二亥  
清水水領知別水用。昭和乙亥年寅东

助川之水高信水用。同八年

心親院教水美送水用。安永四年上乃筋平  
坊沙高信水用。同六年十月廿一日  
死。同寺了齋系

嫡孫水祖

渡名田若三郎

正房

高七拾俵五人持持

安永六年十一月廿二日嫡孫水祖。日七  
戌年九月末持。寛政九巳年八月



十日二九方々書



